

北海道浮魚ニュース

平成 18(2006)年度 6 号 (通巻 No.219)

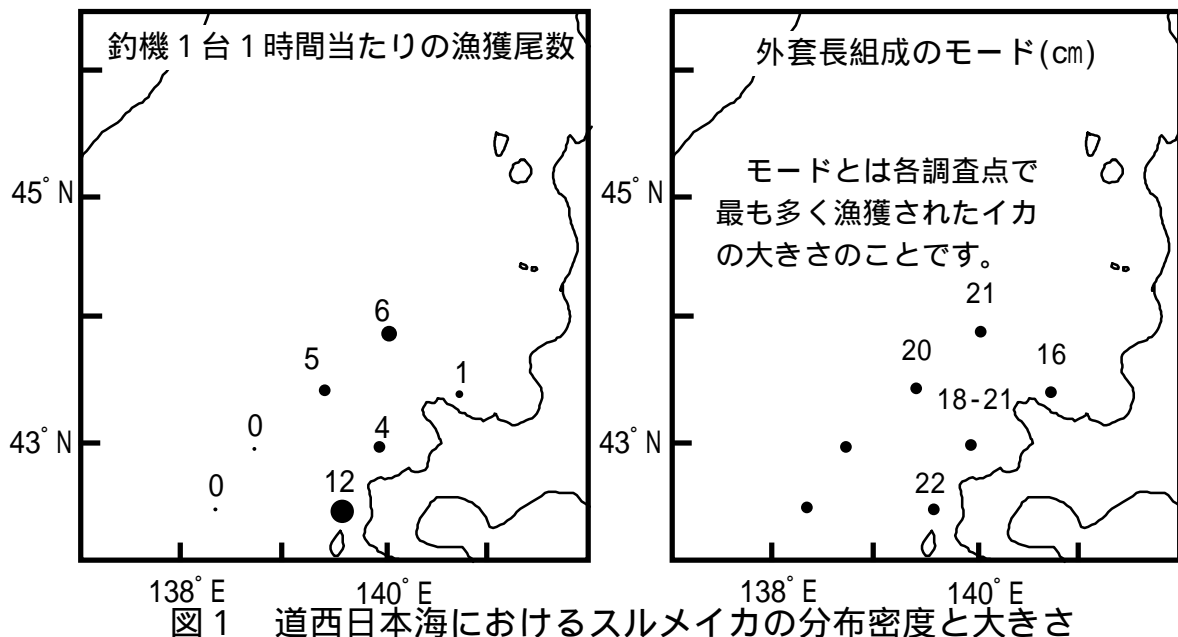
2006 年 6 月 30 日

北海道立水産試験場

ホームページ : http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/ukiuo/uki_index.htm

道西日本海スルメイカ調査結果 (おやしお丸 : 6/20 ~ 6/28 の調査)

分布密度は低く, 魚体サイズは前年より大型



スルメイカの分布密度と大きさ

スルメイカの分布密度 (CPUE : 自動いか釣機 1 台 1 時間当たりの漁獲尾数) は 0 ~ 12 でした (図 1 左側)。瀬棚沖の調査点が、最も CPUE が高く、南の沖合の 2 点は 0 と低くなっていました。調査全体の平均 CPUE は 5 と前年 (4) とほぼ同じ、過去 10 年間で 2 番目に低い値でした (図 2)。

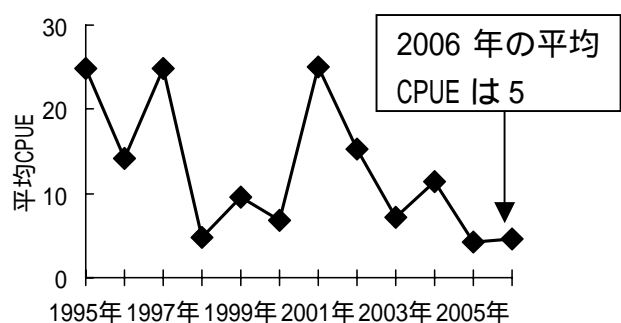


図 2 平均 CPUE の経年変化

各調査点におけるスルメイカ外套長のモードは 16cm から 22cm で、積丹半島沖の調査点を除いて、外套長 20-22cm 台が中心でした。調査海域全体では、外套長モードが 22cm と前年 (2005 年 : 16cm)、前々年 (2004 年 : 18cm) よりも大きいイカが多くなっていました (図 3)。

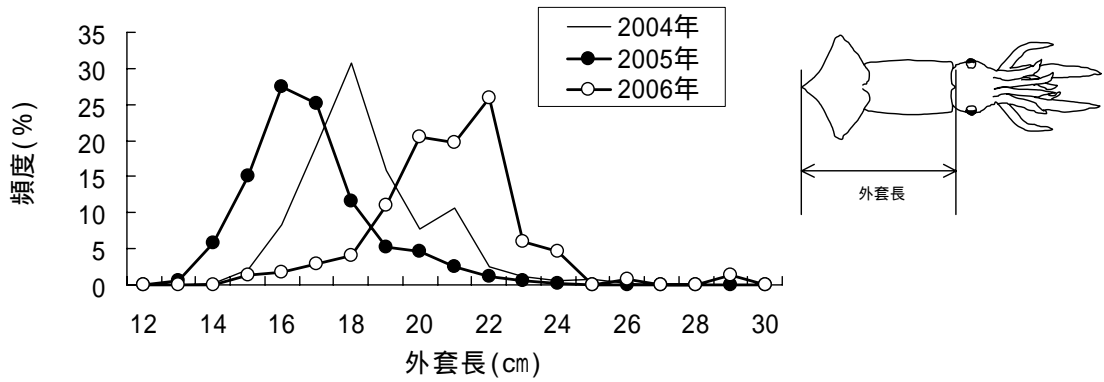


図3 調査海域全体の外套長組成

水温分布

調査海域の50m深水温は、3～11℃台でした。前年に比べると、沖合域の水温が低くなっていました。前年に比べ、10℃以上の水域は沿岸域にのみに分布していました。(図4)。

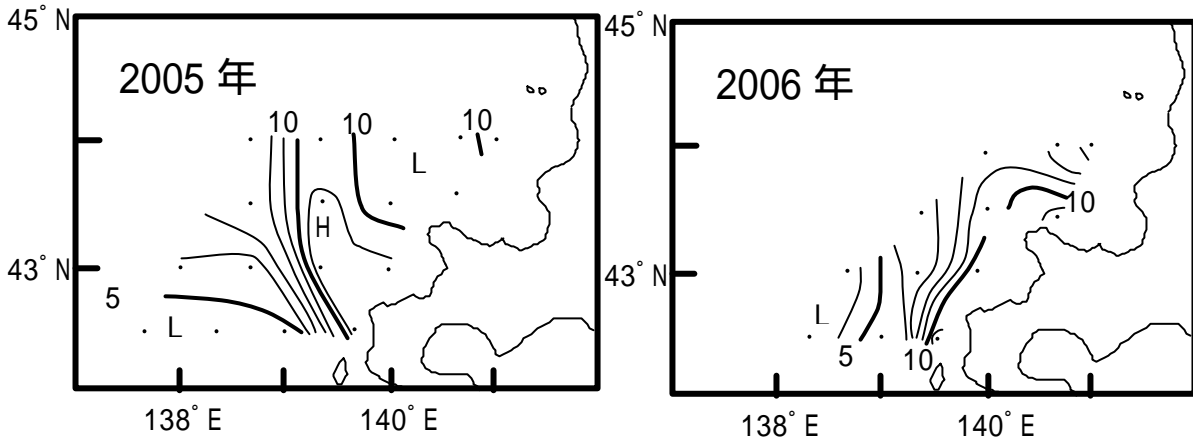


図4 6月下旬の50m深水温分布

今回の調査は「日本海スルメイカ漁場一斉調査」の一環として実施しました。全船の調査終了後、7月下旬に、漁況予報が発表されます。

(文責：中央水産試験場資源管理部，TEL:0135-23-8707，FAX:0135-23-8709)